

会議議事録

2015年7月9日
宮田村役場建設課

会議 タイトル	第1回 宮田村景観計画策定委員会
議題	報告事項 (1) 景観計画とは (2) これまでの取り組みの報告 協議事項 (1) 宮田村景観計画の方向性について (2) 今後のスケジュール
日時	2015年6月30日(火) 午後7時00分から午後9時00分まで
開催場所	宮田村役場委員会室
出席者 (敬称略)	委員：湯澤謙司、新谷久男、浦野宗明、竹平考輝、太田保、矢田典和、 須永次郎、後藤寛、天野早人、佐々木武信、佐々木葉、藤倉英世 進行：伊澤稔典 書記：熊谷良太郎 説明者：報告事項(1)：熊谷良太郎(宮田村役場建設課) 報告事項(2)：熊谷良太郎(宮田村役場建設課) 協議事項(1)：佐々木葉(早稲田大学創造理工学部教授) 協議事項(2)：熊谷良太郎(宮田村役場建設課)
欠席者 (敬称略)	委員：三浦典子、窪田守男、春日孝昭
議事 (敬称略)	1. 開 会 (伊澤建設課長) 【開会挨拶】 【会議の公開の確認】 【異議なしの声】 2. 委 嘱 【委嘱状交付】 3. 村長挨拶 (小田切村長) 景観を守るのも壊すのも人間で矛盾している。宮田村はひと・まち・仕事で定住促進を進めている。市街地の未利用地を第一に宅地化しなければならないが、優良農地の問題もあり、人口増のためには住宅を建てなければならない。忘れてはならないのが、若い人に帰ってきてもらうこと、都会に出ても帰って来なくなる村にしていかなければならない。

心のふるさとといった美しい景観を残していかないと、定住促進だけの仕組みだけではまずい。非常に難しい課題だが、人口増を図っていかなければ、限界の村になってしまうが、美しい村を残していかないと、誰も帰ってこない。矛盾があるが調和の取れた景観づくり、村づくりが重要。宮田村の風土に合った、宮田村ならではの景観計画を策定して頂きたい。

【配布資料資料確認】

4. 策定委員会の目的等の確認と委員長選出

(平澤建設係長)

【資料1-1、1-2に基づいて委員会の目的・委員構成・出席者等確認】

【資料2-3にもとづいて、策定委員会の位置づけ確認】

【委員長、委員長の互選。事務局案として、現在都市計画審議会会長の湯澤委員を委員長に推薦。学識経験が豊富な浦野委員を副委員長に推薦。】

【異議なしの声】

【村長退席】

以降湯澤委員長によって進行。

(湯澤委員長)

【委員長挨拶】

景観と一口で言っても大変わかりにくく、なかなか奥深い。地域の中で育んでいく景観、心の中にある景観、社会的なものの中にある景観、あらゆる物に関わってくる。これから宮田の中で住んでいく、より良い地域を作っていくためにある程度の計画が必要。皆様のご意見、議論を宜しくお願いしたい。

今回のため、自己紹介をお願いします。

【委員自己紹介】

【事務局自己紹介】

【議事録書名委員の氏名】

新谷委員と須永委員を指名。

5. 報告事項

(平澤建設係長)

宮田村では昨年からの景観計画策定への取り組みを進めてきたが、報告事項の、(1) 景観計画とは、(2) これまでの取り組みの報告をあわせて、6月2日から行った地区説明会で使用したスライドを用いて報告する。

(熊谷主事)

【補足資料①のスライドの説明】

【質疑なし】

6. 協議事項

(平澤建設係長)

(1) 宮田村景観計画の方向性について

初回でもあるため、昨年までの実施した調査結果などを含めて、早稲田大学佐々木委員・藤倉委員から情報提供をお願いします。

(佐々木委員)

【補足資料②のスライドの説明】

(藤倉委員)

【補足資料②の後半の説明】

(湯澤委員長)

今日は、今後の委員会で考えていくこと、景観計画のイメージなどを委員から出して欲しい。

今の説明を聞いても大変大きい話で、建物の規制や物の規制と思っていたが、今後どういった生活をしていきたいかなど、将来像に絡めての景観という気がする。まずそれには具体的に何をしなければいけないかなどが必要だと思う。

(矢田委員)

大学の先生からの話を聞いても、景観の議論はなかなか難しい。一番感じたのは、景観計画の目標像について、宮田村の歴史的な部分の何を残していくか、その位置づけが漠然としていて、言葉が詰まってしまう。宮田村は明治8年からずっと単一行政体としてやってきて、町内会も残っている。他所に比べて景観も極端ではない、開発も他より多くない。今、残さなければいけない景観は何なのかは、私自身もわからない。それは、昔から皆さんが生活環境を良くしようとして築きあげてきたもので、それを残そうという意識はあまりなかったと思う。昔の遺跡や文化財に対しては意識があるが、生活的な形での部分とは何だろうという難しい。

先ほど100年以上変わっていない地域として、北割、町割、中越があったが、逆に言うと、中越はインフラ整備に恵まれなかった地域である。また宮田の景観が極端に変わったのは昭和44、45年に土地改良をして、昭和46年から全村圃場整備事業、そのときには田んぼに出来るところは徹底して土地改良せよという目標で取り組み、利便性はよくなった。その前と後で景観は変わっている。土地改良から逃れた地域が先ほどの地域という認識になり、そこはインフラ整備が遅れ、旧態依然のまま、車社会においても行き違いの出来ない道路など不便である。

その中で、宮田で景観計画を「住みよい宮田村づくり」とすると、出て行った人が帰ってくる、住みたいところにするなど、宮田だけ特徴のあるといっても、伊那谷という気候風土での部分があるので難しいのではないかと思う。他にも田園風景、田畑がいいという

話があるが、農業問題がある。米が安くなる、後継者がいない、畦畔管理だけでも苦勞している。そのあたりが行き詰っていけば当然景観が崩れるということも確かにある。

そういう意味で、景観計画はどこを視点にしていくか。たたき台が何もないフリー討論だと基本方針などなかなか素人には意見を出しづらい。

(太田委員)

中越の部落が置いてきぼりをされたというイメージだそうだが、町に住んでいると道路を通る車の煩さがあり、中越はそれがなくいいのではないか。水田の話については、農業者として水田をどのように守っていくかが一つの問題だと思う。

宮田は宮田と中越とが中世に合併してできた。それが水田の力によって維持され、神社のお祭りにも宮田としてお金を払ってでも参加するだけの所得があった。それが今の水田に現れている。

これから、農業がアメリカから押されて収入が減るといわれている中、大型機械でいっぺんに耕作ができるよう、住宅地にしないという基本方針を作ってほしい。

都市計画については、都市計画に合った建物なら規制はないようが、宮田の都市計画に合ったものも何年か建つとやむやになってしまうのかとも思う。

宮田は工場が多いが就職する場所がない。そういう問題を把握して、どうして行くか縦割りではなく横割りで考えてほしい。

もう一点、宮田はローム層が全然ない。大田切川でも小田切川でも川がかなり荒れていて、古代以降でも氾濫が起きている。また宮田の建物は、大正以降のものがほとんどである。そういったことも知っていてほしい。

伊那市の条例をみても、もう少し山を景観の中で考えなければならない。長野県全体は山を重点においている。

(新谷委員)

それぞれが価値観の違いがある。赤がすき、黄色がすき、青がすき、などそれぞれの意見も聞いていけばなかなかまとまらない。到達点は価値観が共有できる、そういった理念的なものが最終的なものになるだろう。ただ単に視覚的な要素やこの色は排除しろといったようなことだけでは、難しい。

歴史から今日の景観は作られてきている。宮田は農業が基盤ということで、農地を使って効率的な農業を図るために圃場整備があつて宮田の景観を作ってきた。

今後一番懸念されるのが、今の農地を維持できるだけのマンパワーが継続できるかである。農業委員会の中でも、農水の管轄する農地法や農収法、経営基盤促進法など、農業三法にもとづいた農地の保全、あるいは農業者をどう育てるかということが課題である。無作為に優良農地を開発へ向けていくことは出来ない。それは農業委員会が歯止めをかけるという役割を果たしている。

そういった横の連携を役場、事務局でもとってほしい。現に農地の保全、環境保全まで考えられた取り組み、農水もそのための補助金をつけている。地域住民がみんなに関わる水・農地などにお金を出す、あるいは中山間地域の管理の出来ない農地は環境保全のための方策をとれば国がお金を出す、とやっている。そういったこともふくめ、法律とのから

み、そういった基幹を認識してもらい、環境という面を取り込みながら、みんなが共感できる価値観づくりへ向けていくことが、この景観計画の最終的な到達点ではないかと考える。

(浦野副委員長)

先ほどから話の出ている、100年前からある北割、田中道、町、中越、この辺のところは、残していくとか現状維持をすとかは、住んでいる方の理解が必要になる。しかし、そこだけを特化して宮田の街並みだとみても、全体の数パーセントにしかない。

そうなると田んぼだとか全体を見た感じの景観の保全、そこに建物を建てると地面から上に上がってくるので、小さい住宅でも目立つと思う。

景観を守るとか、100年先宮田をどういう村に導くかというのは行政で指導をしていかないとやりたい放題になってしまうのではないかと。ただ、宅地造成もお金がかかるので難しい問題。工場も自然の中に作れば感じがいいと思うが、緑地帯を増やすと土地の取得費も絡んでその辺も難しい。景観計画は非常に壮大な話という気がする。

(竹平委員)

なぜ景観なのかという目的がまだはっきりしていないようだ。その中では、地域の魅力を高めるのが一つの大きな必要性と思う。ではなにで魅力を高めたいかという、人口流出を防いだり、宮田村の人口を増やして住みやすい村にという目的があるが、もう少し人が集まる場所にしたいというのが目的と考える。「景観を考える会」でもいろいろな意見が出たと思うが、それが成果となるのか非常に疑問。恵那市はどうか。人口や観光客は増えたのか。

(佐々木委員)

恵那市も全体としては人口は減っている。景観施策をしたから人がどんどん増えているというのはない。ただ、部分的には歴史的な街並みがあるところは、文化財の伝統的建造物の保存地区でもあったが、街並み整備したところの観光客は増えている。

単純に景観の施策だけで人が来たということはないが、いくつかの小さい事例として、景観の議論を行っている中で、街中の空き家でカフェをやろうとか、小さい温泉施設の付加価値を高めるために山の木を持ってきて薪でお湯を沸かすといった活動など、景観計画の効果であるかはわからないが、少しずつ変化はある。

ルールを作って、みんなが守るようになったから効果が出て人が来るようになったというよりも、取り組みの中で、住民一人一人や、商売やっている方が何とか工夫しようということが成果になることはあると思う。

(竹平委員)

そうなってくると、結局ハードとソフトの両面がうまく組み合わせられないと成果が出ない。そうするとこの景観計画を策定するというまでに一番の目的の所をかなり時間をかけて練る必要があると思う。

乱暴なやり方をしてしまえば、中央アルプスや宮田高原を削って、大きな開発をすれば

外からお客さんは入って、経済も、宿泊施設、飲食含め豊かになるはずだが、それが我々が望む姿なのか。または外から見たときに、例えば、近隣の市町村など広域的に見たときに、それがここにあることがマッチしているのか、というところが最終的には議論となる。

(矢田委員)

伊那谷のこの部分というのは二つのアルプスがあって、天竜川が通って大田切があってという景観をなしているが、伊那や駒ヶ根が景観行政団体になっている中で、宮田というエリアが小さすぎて特色が出てこないのではないかな。

(太田委員)

私の読んだ雑誌だと、伊那市は伊那市だけでなく箕輪までおそらく組んだ計画をしているのではないかな。宮田は駒ヶ根まで含めたエリアを考えていかなければならないのではないかな。

それと、住みよい、魅力があるという点、宮田によそから移転してきた方に話を聞いたが、非常に山や川がきれいとか、伊那市や駒ヶ根に病院や買い物に行くのは便利で、東京に日帰りができるという魅力があるという。多くの人に話を聞かないといけない。

駅の近くの水田も、住み良い場所なのになぜ宅地造成をしないとか、そういう話が出たりするが、こういう理由で宅地にしないとといった、一般の人が知らないことを全体に知らせていかなければならない。

家の建て方についても、設計士に相談してくれとか、空き家についても積極的に力を入れて住めるように考えてほしい。高遠領の中でも間口が狭くて、光が当たらないといったことではいけないので、行政が手を入れていくということをしていかないと、まちづくりの中の一つにならないのではないかな。そうしないと、若い人も町の中に住んでくれない。

もっとよそから来た人の意見を取り入れて、村の中の住み良い場所、働ける場所があるということを景観だけでなく考えていかないと、一方通行になってしまってダメだと思う。

(湯澤委員長)

竹平委員の発言にもあった目的は何かを共有し、次回以降協議していただければと思う。

(熊谷主事)

【資料4にもとづきスケジュールの説明】

(湯澤委員長)

今回のスケジュールでは景観形成方針についてとあるが、これほどのように進めていくか。

(熊谷主事)

事務局でたたき台を作って、事前に委員に示したい。

	<p>(湯澤委員長) 今日一番課題になった、目的に対する具体的なものは示してもらえるのか。目的は大きなテーマになる。</p> <p>(矢田委員) たたき台というか何か具体的な、村として景観計画を作るということであるのだから、具体的にどうしてこの景観計画が必要なのかということを明らかにしてほしい。 また、紙ベースで何かもらえないと単語などもわからない中で議論するにも辛い。</p> <p>(湯澤委員長) 検討する。</p> <p>(平澤建設係長) 事前に庁内検討会という関係部署が集まる会議があるのでそこでも検討し、早めに委員に出していきたい。</p> <p>(伊澤建設課長) 【閉会挨拶】</p>
資料	資料 1－1 宮田村景観計画策定委員会設置条例 資料 1－2 宮田村景観計画策定委員会 資料 1－3 宮田村景観計画の体制図 資料 2－1 過年度報告 資料 2－2 宮田村風景シート回答 資料 2－3 宮田村感想シート景観を考える会、講演会の要旨 資料 3 景観計画とは 資料 4 スケジュール説明 資料 5 地区説明会配布資料「はじめよう、ふるさと宮田の心を育む風景づくり」 資料 6 地区説明会：景観に対する意見、質問まとめ